

# LUXMAN

CL36u MB88u LX38u

The name of LUXMAN for audio excellence is no accident. Our single-minded pursuit of perfection has been exclusively devoted to the audio field and no other. Nor did our preeminent position come

about overnight. The Lux R & D program has repeatedly brought the audiophile ever closer to every music lover's dream: Ultimate Sound Reproduction Realism.

Ultimate Series



LUX CORPORATION

---

# **Ultimate Series**

## 発売のご案内

ラックス株式会社

このたび、真空管によるオーディオアンプを3機種、Ultimate Seriesとして発売することになりましたので、ご案内申しあげます。

形式・品番・価格は右記の通りですが、その品番からも大体の内容および性格は、ご推測いただけるものと存じます。

いずれも、弊社の伝説的な系譜を継承する、その意味ではお馴染みのアンプともいえますが、このシリーズに関しては、ラックスの創業以来、技術・デザイン両面にわたって直接製作に携ってまいりました上原 晋（現技術顧問）が再度腕をふるい、思い残すところなきまでに、徹底した手直しを加えました。もっともパワーアンプのMB88uなどは、全くの新作といってよく、名出力管KT-88によるパワーアンプの極め付きとして、新たに話題を呼ぶものと確信いたしております。コントロールアンプのCL36uについても同じことが言えます。回路構成から使用パーツ、プリント基板のパターンに至るまで、抜本的な改良を押し進めていますから、これもまた、生まれ変わったニューモデルと見ることができます。

プリメインアンプのLX38uは、10数年来（初代のSQ38は昭和38年の発売）のロングラン商品ですが、再三再四にわたって折々の改良を加えてまいりましたので、ここでは音質面でのアプローチが主体になっています。なお、このLX38については、既に多数の方にご愛用いただいておりますので、この機会にお手持ちアンプの実費による改造（回路面に限り）も検討しています。

本シリーズ改良の動機は、音質のさらなる見直しですが、オーディオ機器としてのトータル的な完成度にも目を向けて、造形的な美しさに磨きをかけるべく、外装にもきめ細かな手直しをほどこしています。

量産時代のオーディオ商品としては、異例の企画に属しますが、限定販売を条件に、あえて実現に踏み切ったような次第です。したがいまして、台数に限りのあることは、ご承知いただかなければなりませんが、実質価値と同時に稀少価値の高いアンプとして、オーディオ趣味の再認識に、いくらかでもお役に立ち得れば幸いです。

## 作者の立場から

アルティメイト (Ultimate)とは、どういう意味ですか。

— 最後のとか、究極のとか、そんな意味会いで使っているわけです。根本の、というようなニュアンスもあるようです。

この3機種を選んだ理由は。

— アンプの代表的な形式から一機種づつ、という気持ですが、LX38とCL36については、今まで何度も手を加えてきましたので、最後まで面倒をみたい、というような心情も働いたわけです。

§ Q38Fのときも末尾のFはファイナルだなんて聞きましたが。

— たしかにそういうつもりでした。あのときはというよりも、いつも手を加えるときは、そのつもりで全力を擧げるのですが、あとになると、また気になりだして……。

どんなところが気になりますか。

— 大雑把にいえばバランスです。気になるということは、そういうことだと思います。音のバランスもあるし、外観上の視覚的なバランスもある、といった具合で、これはレベルに応じてつきまとう問題でしょう。音と体裁の間もあります。

こんど気になったのは、どんな箇所ですか。

— 部分的にどことよりも、こんどの場合はもう少し何とかなるはずだというような願望から手をつけたわけです。レベルを上げたいというか、そんな気持です。

そのポイントを具体的に。

— 透明感とでもいうのでしょうか。なんとなく觸っている。音が汚れているとでもいうのでしょうか。薄膜をはがすように膜1枚取除くと、ピックリするくらい音が透き通って、イキイキしてくる。これは特性を眺めただけではわからない。聴きながら、いろいろやっ

てみる以外にないわけです。それに球だからといって、昔ながらの球らしい音を求めたのではないです。録音現場の雰囲気まで感じるような生々しさが欲しいのです。現在のトランジスタアンプが、力づくで強烈に再生しようとするため、盲点になっているリアルな雰囲気描写を、力まずして達成しようとしたのです。

真空管に限定したのは。

— 限定したわけではなく、たまたま手を加えるのに都合のよいアンプが真空管だったということです。それに真空管は、これ自体が究極の姿に完成していますから、対策すれば敏感に反応するということもあって、音を追いかけるには、トランジスタよりも向いています。

トランジスタよりも真空管の方がよいと考えているわけですか。

— よいという意味は、いろいろあるんじゃないですか。それは目的によって決まることがあります。トランジスタも見方によっては、よい素材です。球もそうです。オーディオアンプの場合は、音、音楽、といった複雑で微妙なものを扱いますから、素材としては素姓の、ハッキリしたものの方が何かと都合がよいわけです。正体の掴めない素材では、目的を達成するまでに時間がかかります。今すぐいい音が聴きたいというときには、球の方が有利です。可能性を追求するということになればトランジスタの方が面白いかもしれません。

こんどのアンプには相当自信をお持ちのようですが……。

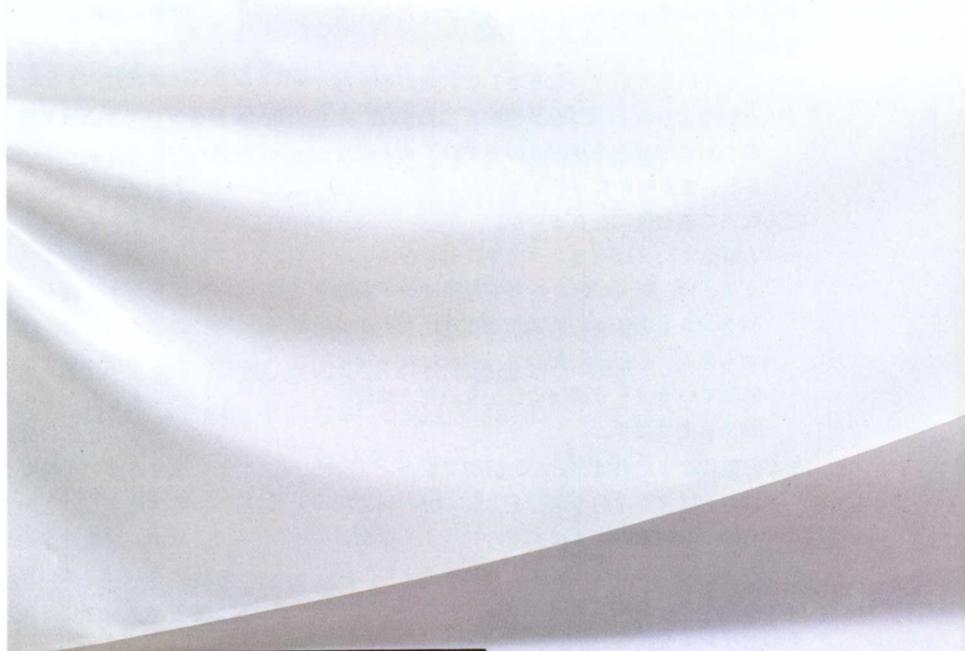
— あるといえばあるし、ないといえられない。なんといっても最後は感覚の領域になりますから、自分が絶対だと感じる点では自信もありますが、他人がどう感じるかについては、自信が持てない。だからこそ、商品として世に問うてみたいという氣にもなるわけです。

- コントロールアンプ CL36u Ultimate
- パワーアンプ MB88u Ultimate
- プリメインアンプ LX38u Ultimate

予価￥360,000<限定200台>

予価￥250,000<限定400台>

予価￥300,000<限定200台>

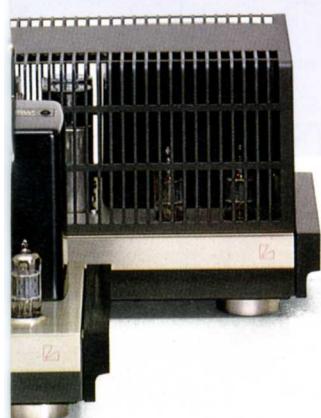


●コントロールアンプ CL36u

不滅の真空管アンプ

オーディオの粹

作 上原  
晋



●パワーアンプ MB88u



●プリメインアンプ LX38u

## 真空管コントロールアンプ CL36u

本機はCL36のマークⅡに相当するわけですが、Ultimate（究極）を表示している通り、やり尽すことを前提に、白紙から改善に取り組みました。

アンプの音質は、ともすればパワーアンプ主体に論じられがちですが、実情は必ずしもそうではなく、プリアンプが重要な鍵を握っています。それを実証したいという気持も、ここには込められているわけです。

イコライザ回路は、ゲインの関係で使う球が限られてしまいますが、どの球も特有の音のくせがあるので、ここでは12AX7のくせが出しゃばらないように、回路とその動作点を選んであります。

フラットアンプも同様な配慮のもとに12AU7を2段直結のSRPPとして、低域の時定数を排除しています。このため、周波数特性も最近のDCCアンプなどに、1Hz以下までフラットに伸びています。音質重視が、特性軽視でないという、当然といえば当然のことですが、実際にこれを両立させた真空管アンプとしては、前例がありません。

NF量とともに、音決めの急所になっているの

は、電源部のレギュレータ（定電圧回路）です。前作のCL36で、プリアンプとしては初めて、これを採用しましたが、今回はこのレギュレータにも双3極管を2本（12AU7、12BH7）投入しています。これは電源回路に対して直列に入りますから、音質への影響も想像以上に大きく、音づくりのノウハウを發揮する重要なポイントでもあるわけです。

本機の透明でしかも厚味を感じさせるクリアで柔かい音質、しかも適度に引き締っていて、球のアンプにありがちな音の余分なふくらみを抑えたどっしりとすわりのいい音が特長です。

使用真空管 12AX7(2), 12AU7(8), 12BH7(1)

定格出力 2V, 最大20V(出力インピーダンス  
600Ω)

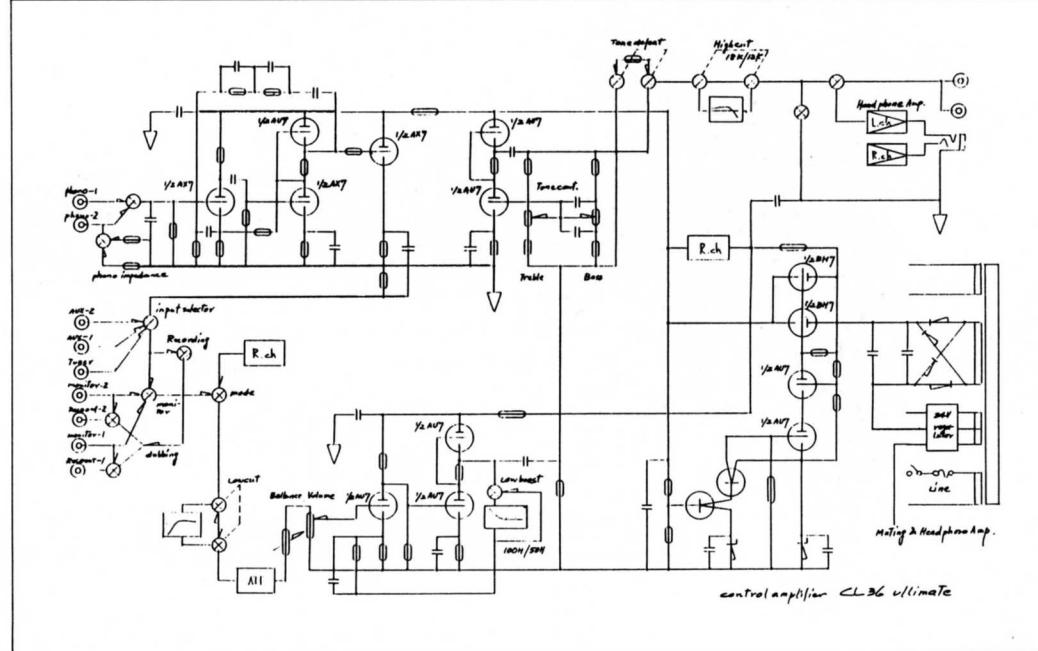
歪率 0.1%以下(20~20KHz)

周波数特性 1Hz~50,000Hz(-1dB以内)

入力感度 phono-1~-2:2mV  
(出力1V) tuner+aux-1~-2:190mV

S/N比 phono-1~-2:80dB以上  
(IHF-A補正) tuner+aux-1~-2:95dB以上

外形寸法 490(幅)×201(高)×294(奥行)mm



## KT-88モノーラル・パワーアンプ MB88u

出力管にK T-88、出力トランジistorにO Y-36型を起用して、モノーラル60Wのパワー・アンプに仕上げました。3結という手もありますが、出力に不満(30W)が残りますので、ビーム接続を選びました。ただし、出力管の寿命を考えて、酷使を避けていますから、マッキントッシュのMC-275(75W)などに比べると、少し低めになっています。

KT-8は、性能・信頼性・実績、どこから見ても非の打ちどころのない出力管であり、現在なお現役で活躍していますが、このすぐれた素材の活用という面では、まだまだ挑戦意欲をかきたてるだけの可能性を含んでいます。もちろん、今回の企画もその可能性に惹かれてのことです。

本機では、位相反転回路に、古典的な手法ともいえるPK分割型を採用しました。通常の差動型（ミユーラード型）位相反転回路では、残響性的付加音が、やや耳ざわりになるからです。

NFBの依存度を最少限に止めるのは、本シリーズに共通のテーマですが、2ループでトータル10dB弱のNFBを音質面での仕上げに役立たせて

いります。出力段はカソードフォロワの直結ドライブになっていますが、これは最大出力近くまで、低歪みを保ち、裸特性を向上させる狙いです。また、音質劣化の要因になる位相補正なども極力控えています。

真空管アンプ特有のズッシリと手応えのある中低域の魅力を十分に引き出すため、電源回路にも抜かりのない対策を講じています。出力段の電源は、トランスの独立巻線から供給していますが、これによって、前段への影響も排除しています。得意のトランス技術も充分に駆使しました。

使用真空管 KT88(2), 12AU7(3)

使用出力 QY36-5 KHP

トランス  
電球出力 60W(80)

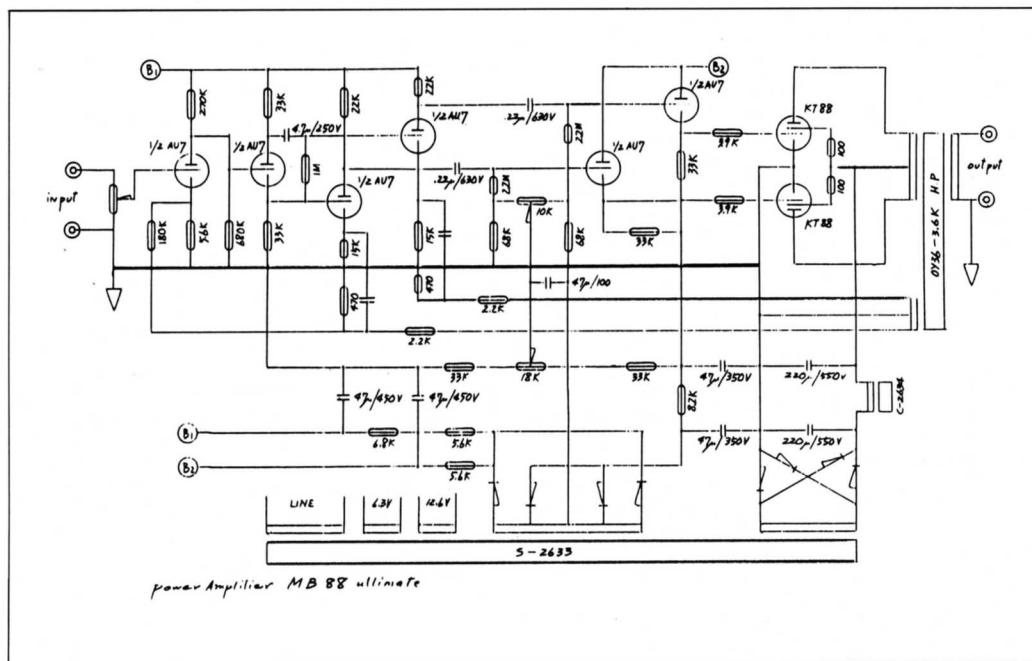
重率 0.5% 以下(最大出力時 1 kHz)

固波数特性  $5.11 \text{--} 20,000 \text{ Hz}$

周波数特性 512~  
入力感度 800 uV

S/N 比 100 dB 以上

外形尺寸 495(幅)×175(高)×253(奥行)mm



## 50CA10プリメインアンプ LX38u

出力管に3極管を使ったプリメインアンプの、“38シリーズ”は、過去6回のマイナーチェンジを重ねて現在におよんでいます。したがって、今回で7代目になるわけです。出力管が6RA8から50CA10に、出力トランジスタがOY14型からOY15型に変更されたのは昭和43年のSQ38Fからですが、そこから数えても14年目になるわけです。そして今度のLX38 Ultimateが文字通り、最終版になります。

本機の回路構成は、LX38がベースになっていますが、音の仕上げという面から、細部にわたって、キメ細かな修正が積み重ねられています。したがって、聴感からの印象は可成り鮮明で、一段と成熟味が加わった感じになっています。

修正のポイントは、やはりNFBの軽量化に絞られていますが、そのためにまず、回路全体にわたって、動作点の再チェックを行い、過剰な裸利得を軽減させています。いわば贅肉の排除ですがこれによって、NFBを約12dB減量させています。段間の結合コンデンサなど、音質に関わるパーツも可能な限り除去しています。補正回路も使わな

いように努力しました。

プリ部の音質への関与を重視して、電源回路には、強力なリップルフィルタを追加しています。その狙いは、S/N比の向上と、低域のスタガリングを低域の限界へ追いやることですが、これによって、超低域の拡張と、同時に安定度の向上を実現しています。

本機は、20Hzの矩形波を完全に通すだけの実力を備えていますが、これは今までの真空管アンプでは考えられなかったことです。真空管アンプでは、特性の向上が音質に好ましい結果をもたらすようですが、これもトランジスタアンプとは根本的に性格を異にするところです。

使用真空管 50CA10(4), 6267(2),  
12AX7(2), 12AU7(4)

実効出力 30W×2(8Ω)

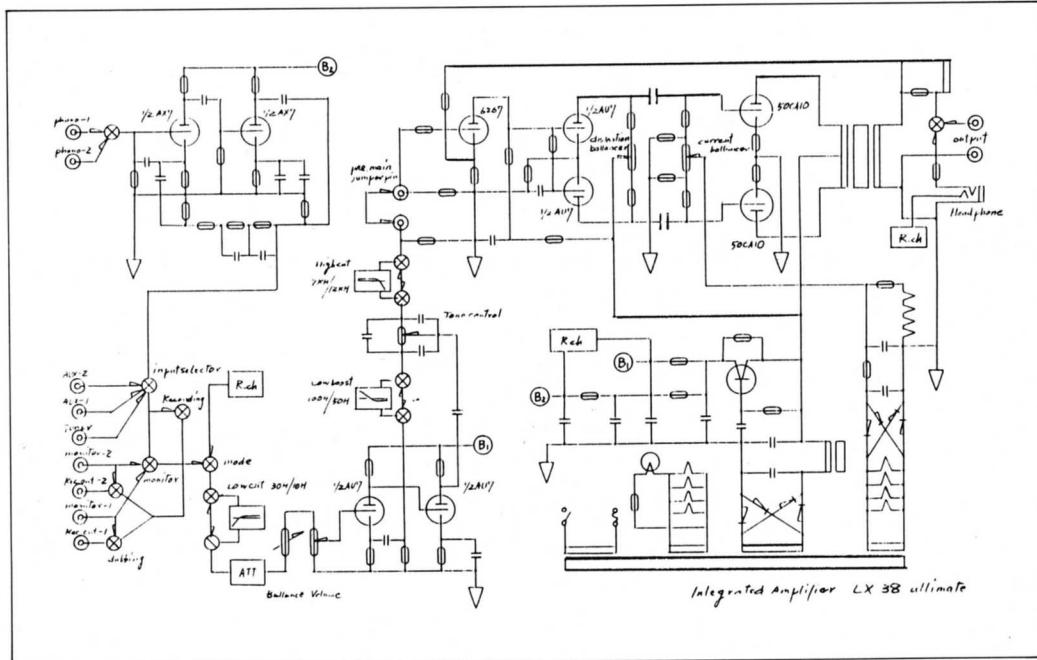
歪率 0.5%以下(8Ω, 1kHz, 1W)

周波数特性 5Hz～50,000Hz(-1dB以内)

入力感度 phono-1・-2:1mV  
(IHF-A補正) tuner.aux-1・-2:150mV

S/N比 phono-1・-2:75dB以上,  
tuner.aux-1・-2:95dB以上

外形寸法 490(幅)×201(高)×352(奥行)mm



●ご注文・ご予約は最寄の営業所へ



本 社/豊中市新千里西町1丁目1-1 ☎565

東京支社/東京都文京区湯島2丁目23-13 ☎113 ☎03(833)7691

大阪営業所/豊中市新千里西町1丁目1-1 ☎565 ☎06(834)1131

福岡営業所/福岡市博多区博多駅前2丁目19 ☎812 ☎092(431)7528

広島営業所/広島市西区柳本町1丁目7-10 ☎733 ☎082(292)2281

松山営業所/松 山 市 馬 木 町 131 ☎799-26 ☎0899(78)3245

名古屋営業所/名古屋市名東区藤見ヶ丘46 ☎465 ☎052(771)1524

仙台営業所/仙 台 市 大 和 町 1 丁 目 3-3 ☎983 ☎0222(94)6262

札幌営業所/北海道札幌市西区琴似1条4丁目 ☎063 ☎011(641)2271